

## スマートシティの実現に向けた技術提案書

様式1

提出年月日： 2020 年 1 月 16 日

提案団体名： 株式会社フィリップス・ジャパン (複数団体による提案も可とします)

## ○提案内容

## (1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等

※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください

技術の概要・実績等	技術の分野
<p><b>Heart safe city(ハートセーフシティ)</b>  “Heart safe city”は、AEDを中心として自治体・学校や企業・地域が手を組み、街が一つの救急チームとなって命を救うことを目的とした、心肺停止後の社会復帰率を向上させるプログラムです。AEDの適正な配置、ファーストレスポンス(救急隊に引き継ぐまで適切に応急手当が出来る救護者)の育成サポート、行政や自治体との体制づくりを推進し、日本の社会復帰率「世界一」を目指します。海外で展開するだけでなく、日本では国立循環器病研究センターと連携して大阪健康医療都市(健都)で健康都市づくりを開始するほか、各地でその取り組みを開始検討しております。AEDは、130ヶ国・200万台を出荷(2019年6月時点)。そのほか、救援アプリに連動したSOSボタンを提供開始。SOSボタンにより、IoT技術とアプリの連動によりより広範囲に必要な人への一斉通知が可能となり、各組織における自助・共助を強化した体制作りや、人がたくさん集まるような大規模イベントの救護体制構築が可能になります。</p>	(7)

## (2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ

※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>日本では、心肺停止による突然死が年間約7万9,000件発生しています。これは、1日に約200人が突然死していることになり、世界の最善事例であるシアトルやコペンハーゲンと比較すると大きな差があります。これはAEDの適正配置に加え、その場に居合わせる人々がAEDの操作方法を理解するとともに、救命のために一歩を踏み出せるかどうかにかかっています。</p>	(カ)

## (3) その他

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

## ○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
TC Business Marketing Group	藤戸 慶一	070 4579 0666	<a href="mailto:keiichi.fujito@philips.com">keiichi.fujito@philips.com</a>